

整頭
集解

朱小學句讀明辨

關廷永校閱
高垣守正編纂
內編
卷三

特

297

40

館	館書法會育教本日大			漢書附
	一	四	二	
冊	八	架	〇	
	號		函	

明治十九年五月十一日 四書省發行

釋

朱小學句讀明辨卷之四

南采 朱熹 原撰

日本 楓陰關 廷永 校閱
日本 明園高垣守正 編纂

敬身第三

釋 敬身トハ自分ノ一身ヲ敬ヒ大切ニスルヲナリ其第三
ト稱スルモノハ立教ヨリ數ヘテ内篇中ノ第三番目ニ

本此ニ於テ差
ヘバ則チ事物
モ亦從フテ差
フ豈ニ敬セサ
ルヘケンヤ○
三宅觀瀾曰ク
敬身トハ慎ミ
重シテ其身
ヲ奉持スルヲ
云フナリ

ナリ心術内ニ正ク威儀外ニ正シケレハ則チ身ヲ敬スルノ大徳得ル矣
其衣服飲食ハ身ヲ奉スル所以ナリ敬モ之レヲ制スルニ義ヲ以テシ之
レヲ節スルニ禮ヲ以テセスンバ將サニ其人ヲ養フ所以ノ者及テ人ヲ
害スルヲ見ントスルナリ分テ之レヲ言ヘバ心術威儀ハ徳ヲ修ムルノ
一ナリ衣服飲食ハ己ニ克ツノ一ナリ總テ之レヲ言ヘバ皆身ヲ敬スル
ノ要ナリ蓋シ惟身ヲ敬ス故ニ父子君臣夫婦長幼朋友ノ間ニ於テ施ソ
而シテ可ナラサルハナシ此古人身ヲ治ムル一必ズ敬ニ本ツク所以ナリ
凡テ四
十六章

孔子曰君子無不敬也敬身為大身也者親之枝也

朱小學句讀明辨

卷之四

○明心術之要章

○一

吉岡氏藏板

子曰君子其身

曰ク君子其身ヲ敬スル所以ハ我カヲ為メニ自カラ敬フスルニアラズ身我ニアリト雖凡其氣ト性トハ則チ之レヲ親ニ受ケ之レヲ祖ヨリ傳フ已以テ輕クノ而ノ之レヲ辱シムルヲ得ルニアラス故ニ曰ク其身ヲ敬セサルハ是レ其親ヲ傷フナリ○真氏曰ク子ノ身父母ニ出ヅ本一体ニ

敢不敬與不能敬其身是傷其親傷其親是傷其本
傷其本枝從而亡
分ノ一身ヲウヤマヒ大切ニスル一ガ第一番ノ肝腎ヲアル何故トナシ
ノ根本ニシテ自分ノ身ハ夫レヨリ出デタル即チ枝ナリ故ニ決シテ自分
ノ物デナケレバ固ヨリウヤマヒ大切ニセネバナラヌ若シヤ其身ヲ大
切ニセヌ時ハ取り直サス自分ノ親ヲ疎末ニスルモノテアル其親ヲ
疎末ニスレハ即チ樹木ノ根元ヲキツケルモノデアル其根ヲキツ
ケタ時ハ其本ヨリ分レタ
枝カ夫ニ付テ樹ル記ナリ法此一節ハ孔子ノ語ヲ引キ以テ其身ヲ
摸景賢範述此篇以訓蒙士
夫故昔ノ聖徳アル人ノ行ハ
シ又賢徳アル人ノ言ハレタ則チ手本ニ從ヒ此故此一節ハ朱子親カラ
身ノ一篇ヲ作り以テ文辭ナル連中ニ教フルト故身篇ヲ作り以テ所以
者ナリ 忠 忍

○丹書曰敬勝意者吉怠勝敬者滅義勝欲者從欲勝義

者凶

釋丹書トハ昔ノ書物ノ名ニ周ノ太公望呂尚ガ作りテ武王ニ教ヘラ
レシ所ノ者ナリ敬トハ人間カ萬事ヲ慎ミ大切ニスル一ナリ怠トハ
物事ニナマケオコタル一ナリ凡ソ人間カ萬事ヲ慎ミ大切ニスル所ノ心ガ物
事ヲアナドリヅルケル心ニ打チ勝ツ時ハ萬事ガ疎忽ニナラヌ者故万端行フ
所作ガ善クナリ誠ニ結構ナフデ實ニ其身ノ仕合ト為ル又夫トハ裏腹テ物事
ヲアナトリナマケル心ガ物事ヲウヤマヒ大切ニスル善キ存志ニ打チ勝ツ片
ハ其人ノ所作カ皆惡クナル者故必ズ其身ハ他人ノ為メニ打チ亡ボサレル又
其為ス事ガ皆道理ニ叶フテ居テ所謂純然タル天理ノ公ケ心カ自分ノ得テ勝
手ノ心ニ打チ勝ツ片ハ自分ノ為ス所作カ屬統ニナリユキ又其慾心カ義心ニ
打チ勝ツ片ハ世間ノ者モ皆其得手勝手ヲ憎ム様ニナル者故必ズ其身ノ為メ
ニ惡クナル

曲禮曰毋不敬儼若思安定辭安民哉

釋毋不敬トハ
自分ノ為ス

所カ何事ニテモ皆慎ミ大切ニセヌト云フ一ハナク又自分ガ平日坐シテ居
ル様子ハ嚴重ニ攝ヘテ何カ心ニ物案事セシ様ニアリ且自分ガ遣フ辭ハ成文
厨合テ慥カニ述ヘ箇様ニ行狀ノ正シキ者ニ天下ノ政權ヲ取ラシムレバ所謂
已レヲ正フシテ後人正シクナル記合ナレバ天下ノ人民ヲ安穩ニ治メル一ガ
出来ルナリ且ツ母トハ禁止ノ辭ニテ堅ク物ヲ思ヒ止メタル法此一句ハ先ツ
辭ナリ故ニ毋不敬ト云ヘハ堅ク物事ヲ敬フノ意ト為ルナリ法己カ心ヲ正フ
スル一ヲ述ベシモノナリ又儼若思トハ其容貌ヲ正フスル一ヲ述ヘシナリ又
安定辭トハ其言語ヲ正フスル一ナリ故ニ先ツ其心ヲ正フシ次ニ其容貌ヲ正

朱小學句讀月粹 卷之四 吉岡氏藏板

而ノ行ク後チ... 遂ニ景ヲ以テ... 向ヒ慕フノ意... 模範聖賢ノ言... 天下後世ノ法... 純ト曰フナリ... 丹書曰大戴禮... 二曰ク武王祚... 尚父ヲ召ソ而... ノ問フテ曰ク... 黃帝顓頊ノ道... 存スルカ曰ク... 丹書ニアリ王... 之レヲ聞ント... 欲セハ則チ齊... セヨト齊スル... 一三日王端冕

可満樂不可極... 進マヌ者故決ノ增長... 今日人間ノ踐ミ行フヘキ當然ノ道理ニ據ハヌ者ユヘ遂ニハ自分ノ一身ヲ害シ或ハ一家ヲ破ルニ至ルヲ以テ此欲心ヲ思フ儘ニシテハナラヌ又志トハ心ノ之ク所ニ自分ノ心ニ箇様為サント思フガ即チ志ナリ先ツ人ハ立身出世ニ志シ又ハ金錢ヲ沢山蓄ヘント思ヒ其所存ノ通り自分ノ身分力貴クナルト夫レヨリ驕リ高ブル心ヲ生シ竟ニ其一身ヲ害シ一家一國ヲモ害スルニ至ルヲ以テ其所存ハ充分ノ處ヲハ... 管絃ノ樂ミヨリ其他美人ヲ... マシムルヲナレバ餘リ樂ミヲ極ムルト竟ニ大變ナ禍ヲ惹キ出ス者ナレハ其樂ミモ成丈極處迄... 行カヌガヨキナリ... 愛而知其惡憎而知其善積而能散安安而能遷... 賢者狎而敬之畏而愛之

ス尚父モ亦端冕書ヲ奉ソ入ル王東面ノ立ツ師尚父書ノ言ヲ道フテ云々トアリ即チ是レナリ敬勝息云々合璧ニ曰ク莊敬ノ心怠惰ノ心ニ勝テハ則チ一心肅然百体皆正フノ而ソ吉ナラザルナキナリ怠惰ノ心莊敬ノ心ニ勝テハ則チ一念既ニ弛ミ百事皆廢シ而ソ滅セサルナシ天

臨財母苟得臨難母苟免很母求勝分母求多

世間ノ人ニ狎レ親テモ便ニ無禮ハセス又人ノ威光ヲ畏レテモ自分ノ身ハ恭シクシテ更ニ其人ヲ疎遠ニハセズ能ク之レヲカアイガリ又人ヲカアイガリテモ無暗ニ愛ニヲボレズ其人ノ行ヒノ惡キ所ハ能ク見分テ知ル様ニシ又人ヲ憎デモ亦其人ニ善キ所カアレバ夫ヲ見分テ知ル様ニシ又世間普通ノ風トシテ如何ホド錢金ガ沢山アツテモ人ニ施スヲ知ラヌ者ナレバ賢人ハ左様ナラフセズ沢山金錢ヲ積ミ貯フレバ程能ク其金錢ヲ貪人ナトニ散シ與ヘ又自分ノ心ハ其安スヘキ善道ニ落着テ益々... 其善キ行ヒノ地位ニ遷リス、ム様ニスル... 此一節ハ賢者カ世間ノ弊風ニ染フ

理ノ公ケ人欲ヲ抑制シテ義ニ依テ... 疑事毋質直而毋有... 孔子曰非禮勿視非禮勿... 聽非禮勿言非禮勿動... 如見大賓使民如承大祭已所不欲勿施於人... 出門

ノ私ニ勝テ... 八則チ凡ソ事... 一ニ義理ノ正... 二出テ而ノ順... ナラサルナシ... 人欲ノ私ニ勝... 理ノ公ケニ勝... ハ則チ凡ソ事... 一己ノ私ニシ... 徇フテ而メ凶... ナラサルナシ... ト○朱子曰ク... 理ヲ以テ事ニ... 從ハハ是レ義... 理ヲ以テ事ニ... 從ハハ是レ義... 義ト是レコノ... 体用亦猶水坤

ヲ取扱フ時ハ万事ツ、シミウヤマウテ行フ者故平生左様ナルツ、シミウヤ... 爲テ組下ノ人民ヲ取扱フナリ大祭トハ或ハ天地ヲ郊外テ祭リ又自分ガ仕... ル國ノ御先祖杯ノ大切ナル祭リヲ云フ如承トハ甚大切ナル祭リニ付テ自分... ガ仕事ヲ取扱フナリ凡ソ箇様ナル時ニハ自分ガ成丈謹シミテ扱フ者故今... 自分ノ支配下ノ百姓ナドヲ扱フニハ右大祭ノ時ニ事ヲ取扱フ様ニ大切ニツ... ツレンデ取扱フベレト云フナリ又已所不欲トハ自分ガ箇様シテハ嫌シヤ... ト吾心ニ嗜キ好ヌナリ凡ソ自分ノ嗜キ好ヌナリハ決シテ他人ニ仕向ヌ様ニ... 推量テ行フ故之レヲ恕ト云フナリ... 法テ孔子カ仲弓ノ仁ヲ問フニ答ヘラ... レシ辞ヲ引キ以テ自分ノ一身ヲ大切ニスルハ敬恕ノ二字ヲ行フベキヲ述... ヘシモノナリ此節如承大祭ヨリ以上ハ人ヲ敬スルヲ述ヘ又已所不欲以下... ノ二句ハ人ニ向テ恕

○居處恭執事敬與人忠雖之夷狄不可... 棄也... 此論語子路篇ニ於テ孔子樊遲カ仁ヲ問ヒシニ釋居處トハ平生ノ容... 儀ノノニテ恭トハ... ウヤクシクツ、シンテ居ルヲナリ此三字ハ本ト自分ノ身ノ持チ様ヲ云フモ... ノナリ執事トハ自分ガ万端物事ヲ取扱フニテ敬下ハ心テ謹ミ深ク物事ヲ... 疎畧ニセヌナリ故ニ恭ト敬トハ同シ謹ム意味ナレト恭ハ謹ミノ外ニ顯ル... ル所ニツイテ云ヒ敬ハ自分ノ心中ノ取り守リ様ニ付テ云フ同シ謹ミテモ此

ノ敬義ヲ説ク... 云々説義ニ曰... 敬セサルナ... カレトハ是レ... 統ヘテ主宰ノ... 處ヲ言ヒ身心... 内外ヲ兼ホテ... 説ク○朱子曰... ク儼ニメ思フ... カ若シトハ敬... スル者ノ敬ナ... リ辞ヲ安定ニ... スルハ敬スル... 者ノ言ナリ民... ヲ安スルカナ... トハ敬スル者... ノ效ナリ若シ... 尺夕事過譽ナ

朱、學、尚、賈、月、梓、卷、之、四、吉、岡、氏、藏、板

クン以テ民ヲ安スヘキヲ以テ説ト為セハ則チ氣象淺迫

敬雖蠻貊之邦行矣言不忠信行不篤敬雖州里行乎哉

法此一章ハ論語衛靈公篇ニ於テ孔子ガ子張ヨリ行ハレシク問ヒシクニ答ヘラレシクナリ

忠信ナラス行ヒカ篤敬ナラザレバ州ニ至ラズ

子有九思視思明聽思聰色思溫貌思恭言思忠事思敬

教不可長云々

疑思問念思難見得思義

見分ケント思ヒ耳ヲ聞クニハ能クハツキリト其善惡ヲ聞キ分ケテ度思ヒ顔色

ノ者ハ心ヲ盡スルノ者ナリ

志不可滿正義

二曰ク心貪慾

朱子曰ク君子所

存ス是レナリ 人皆欲アリ但

夕之レヲ縦マ ンニスルヲ得

志トナス凡ソ 人志意アレハ

但夕自カラ満 ツルヲ得テ故

ニ六韜ニ曰ク 器満ツレハ則

チ傾ク志満ツ レハ則チ覆ヘ

ル樂ミハ人情 ノ己ム能ハサ

ルトコ口當サ ニ自カラ抑ヘ

テ止ムベシ極 ノ為スベカラ

貴乎道者三動容貌斯遠暴慢矣正顔色斯近信矣出辭

氣斯遠鄙倍矣法此一章ハ論語泰伯篇ニ於テ孟敬子カ曾子ノ病ヲ問ヒ

述ヘシ釋君子ハ有徳ノ人ヲ指ス道ニ對フ所トハ今日人間ノ道ヲ行フニ付テ

簡條アリ第一自分ノ貌ヲ動ス時ニハ即チ兎角荒々敷禮法ヲ備タル様子ノ無

キ様ニスル斯ハ即チト同シ義ニテイツデモト云フ義ナリ既ニ其容貌ガ暴慢

ナラザレバ自分ノ舉動ガ皆道ニ叶フハ固ヨリ言ヲ竣タサルナリ又自分ノ顔

色ハ正シク嚴重ニシテ妄リケ間敷セス自分ノ口ヨリ息ヲ出シテ辭ヲ吐ク時ニ

ハ何時モ鄙劣テ道理ニ畔キタルコトヲ言ハヌナリ朱子曰ク言ハ道ニ在ラザル

ナシ然レハ君子ノ重スル所ノ者ハ此三事ニアルノミ是皆身ヲ修ムルノ要政

ヲ為スノ本學者ノ當サニ操存省察シテ 造次顛沛モ違フ者アルベカラサルナリ

曲禮曰禮不踰節不侵

侮不好狎修身踐言謂之善行法此一章ハ禮記曲禮篇中ノ語ヲ引

シモノナリ故ニ此章ニ於テハ禮ノ一字ハ下釋凡ソ人間ノ取守ルヘキ禮儀ニ

ノ三句ヲ貫キ下ノ一句ハ上ノ一句ヲ承ク法於テハ必ス上下貴賤ノ順序階

級アルモノナレハ決シテ其順序ノ階級ヲ踰テハナラズ此方ヨリ人ノ分限ヲ侵

シ入り其人ヲ侮ラス又他人ヲ嚙好ミテ狎々敷セス我一身ノ行狀ヲ脩メ自分

ノ一旦吐タル辭ハ是非違ヘヌ様ニスルコトヲ指シ

人間ノ道ニ叶フタル結構ナル行狀ト云フナリ

樂記曰君子姦聲

亂色不留聰明淫樂慝禮不接心術惰慢邪辟之氣不設

於身體使耳目鼻口心知百體皆繇順正以行其義法此

章ハ樂記ノ語ヲ引キ以テ君子ノ外ヲ釋君子トハ徳ノアル人ヲ云フ姦聲トハ

正フシ内ヲ養フコトヲ述フルモノナリ法正道ニ外レタル邪ノ聲ニシテ鄭衛ノ音

樂ノ如キ是ナリ甜色トハ道ヲ亂タル正シカラサル物ノ色ヲ云フ今媚妓藝妓

キ分クルコトヲ云ヒ明トハ本ト眼ニテ能ク物ノ善惡ヲ視分ルコトヲ云フ故ニ姦

聲亂色不留聰明トハ邪ナル声邪ナル色ハ凡テ自分ノ耳ニモ目ニモ留ヌコトヲ云

フ淫樂トハ淫奔ナル音樂也禮トハ正道ニ叶ハヌ禮儀ヲ云フ故ニ今鄭衛二樂

親ムナリ又曰ク愛シテ而ソク其惡ヲ知リ憎テ而ソ其善キヲ知ル已ノ愛憎ハ或ハ私心ニ出テ而ソ人ノ善惡自カラ公論アリ惟タ賢者心ヲ存スル一中正乃チ能ク此ヲ以テ彼ヲ廢セサルナリ

積而能散云々陳作曰ク凡ソ積蓄アリ而ソ能ク散施シテ以テ貧ニ期シ今日此安スル所

慎於言就有道而正焉可謂好學也已

懷如流民之下也見懷思威民之中也

管子曰畏威如疾民之上也從

ニ安スレバ而勝手が出ルト上ノ御控ノ一ヲ考ヘテ淨々思シキ一ヲセヌ者ハ人間ノ品柄ヲ云ヘバ中等ノ者デアアル

右明心術之要

手立ヲ為ス故心術ト云フナリ要トハ扇子ノ要ノ如ク心ヲ執守ル一ニ付テ肝要ナル事柄ナリ明ニスルトハ古人ノ語ヲ引キ以テ其意味ヲ説キ明ス一ナリ凡ソ古ヨリ帝王聖賢ガ身ヲ修メ家ヲ齊ヘ國ヲ治メ天下ヲ平ニスルノ大事業モ其本ハ皆我心ヲ正フスルヨリ大切ナルハナシ故ニ敬身十二章ハ俱ニ心術ヲ正フスルヲ以テ要トス故ニ大學ノ道モ必ズ意ヲ誠ニシ心ヲ正フスルヨリ始マルハ亦此意ナリ

冠義曰凡人之所以為人者禮義也

人ノ禮義ヲ行ハザルベカラザル一ヲ述ベシモノナリ而ソ斯篇ヲ冠義ト名ツケシハ士ノ冠ヲ加フル一ノミヲ説キシヲ以テナリ

禮義之始在於正容

近クメ而メ同
シカラズ歎ハ
則チ大節ノ係
ル所很ハ則チ
一時ノ怒リ

孔子曰非禮勿
視云々朱子曰
ク非禮トハ已
カ私ナリ勿ト

ハ禁止ノ辞ナ
リ又曰ク但些
ク箇ノ道理ニ
循ハザルアル

禮便チ是レ非
禮
出門如見大賓

云々講述ニ曰
ク賓ヲ見レハ
則チ冠帯前ニ

アリ誰カ敢テ
怒ルセシ此皆
人心ノ必ス敬

スル所若シ門
ヲ出レハ則チ
止我ニ由ル

前ニ拘スル所
ナク未タ自カ
ラ肆ニセサル

モノアラス民
ヲ使ハハ則チ
攝縦我ニ由ル

未タ自カヲ驕
ラサルモノア
ラス能ク門ヲ

出ルキニ於テ
常ニ檢ノ大賓

冠ニ檢ノ大賓

朱小學句讀月辨

卷之四

體正顔色齊辭令順而後禮義備以正君臣親父子
幼君臣正父子親長幼和而後禮義立

身振ヲ嚴重ニシ又顔色ヲ正シクシテ妄リニナキ様ニシ又辭ノ遣ヒ様ヲ順統
ノ道ニ叶フ様ニスルコトナリ箇様ニ身振リヲ嚴重ニシ顔色ヲ正シクトノヘ

其辞モ順統ニシテカラ万端ノ禮義作法が出来揃フ者テアルソウシテ君ハ貴
ク臣ハ卑キ所ノ分限ヲ正フシ父ハ子ヲ愛シ子ハ能ク親ニ事ヘテ父子ノ間ヲ

睦敷シ又長者ハ万事先ニ立テ幼者ヲイツクシ幼者ハ能ク長者ニ仕ヘル様
ニ長幼ノ間ヲ和ケ斯ク君臣ノ間カヤワラヒテソコデ人間上下ノ別カ立チ禮

義作法が始テ立ツ者テアル此蓋田呂氏曰ク容貌ハ四体ノ容ニ動ク者ナリ顔色
ハ生色ノ面目ニ見ル、者ナリ辞令ハ語言ニ發シテ而シテ章アル者ナリ三者ハ身

ヲ修ムルノ要必ズ學テ而シテ後チ成ル必ス成人ニシテ而シテ後チ備ハル童子ハ未
タ人ト成ラザルモノナリ斯ノ三者ニ於テ以テ學バサルベカラズ古者子ヲ教

フルニ能ク食ヘバ右ノ手ヲ以テスルヲ教ヘ十三舞射御ヲ學フニ至テハ則チ
之レヲ養フコト素アリ之ヲ養フコト久シケレバ則チ安シ安ケレバ則チ成ル故ニ

二十ニ至レバ則チ三者備ハル然後チ以テ冠ノ而シテ成人ノ事ヲ責ムヘシ容体
彫顔色齊シ辞令順フ故ニ唯タ此ノ三者ヲ備ヘテ然後以テ人倫ヲ明ニスベシ

人倫ヲ明ニス然後チ禮義立ツ法文此一節ハ上ノ禮義也ノ三字ヲ承ケ
而シテ後チ以テ成人ト為ルベシ法文以テ禮義ノ行ハル、方法ヲ述フ

禮曰母側聽母嗷應母淫視母怠荒遊母倨立母跛坐母

箕寢母伏歛髮母髻冠母免勞母祖暑母褰裳義釋母側聽トハ自分ノ

耳ヲツバダテ、他人ノ話ヲ聞ク様ニスルコト云フコトナリ母嗷應トハ声高
ニ返事ヲスルコト云フコトナリ母淫視トハ自分ノ身振ヲホシイマ、ニスルコト云

フコトナリ遊母倨トハアソビアルクニモ驕リ高ブル様ナ坂ム風ヲスナト云フ
コトナリ立母跛トハ自分カ立ツ時ニハ必ス両足同シ様ニ揃ヘテ立チ決シテ片

足ツ、デ立又様ニスルコトナリ坐母箕トハ腰ヲ掛ケ兩足ヲ伸ヘ箕ト云フ器ノ
如クナルコト云フコトナリ寢母伏トハ夜分寝ル時ニモ丸デウツ伏シテホルナ
ト云フコトナリ歛髮母髻トハ平生デモ髮ハ結構ニ結テ垂髮ヲ下ケルコト添髮ノ

登城不指城上不
吉岡氏成反

ヲ視ルルノ如クナレハ地トシテ敬セザルナキハ知ルベシ民ヲ使フ其心ニ常ニ畏レテ大祭ヲ承ルカ若クナレハ人トシテ敬セサルナキハ知ルベシ

君子有九思云々貝原益軒曰ク此章專ラ身ニ及シ修省スルノ學ヲ言フナリ朱子曰ク若シ視聽辨是非非辨セザレハ則チ下面ノ

呼マ此一章ハ亦曲禮ノ語ヲ引キ以テ人ノ謹法マザルベカラサルヲ教フルモノナリ釋平生城ノ上ニ登テハ決メ外ニ居ル時ハ大声ヲ揚又様ニセヨト蓋シ城ハ高キ處ニノ衆人ノ耳目ニ屬スル處ナレハ万一指シ或ハ呼フアレハ衆人ノ耳目ヲ驚カスヲ以テナリ

將適舍求母固釋自今ガ客トナリテ他家ヘ往キ門ヘ入りカケル時ハ平他ノ客アルカ又他ニ大切ノ事件アリテ入ラレヌアアルモ計ラレサレバナリ

將上堂聲必揚戶外有二

履言聞則入言不聞則不入釋又他人ノ家ノ堂上ニアカリカ、ル

ノ相談テナキ故其内ヘ入り若シ話シ声カ聞ヘ又時ハ其内ニ相談ノアルカ

將入戶視必下入戶奉扇視瞻毋回戶開亦開戶闔

亦闔有後入者闔而勿遂釋又自分ガ客トナリ先方ノ家ノ戸内ヘ入

諸事思フヘキ處ニ於テ皆思フ所以ヲ知ラズ私欲ニ墮ルセラル、ア

ハ是非下ノ方ノミヲ視ル様ニスル是レ上ヲ視レハ其家ノ主人ニ不敬ナルヲ以テナリ又戸ノ内ヘ入ル時ハ兩手ヲ胸ニ當テ兩手ヲ闔持テアケル又ド

ハザルナリ後來ノ者ヲ拒ム釋又自分ガ其帶ニ就ク時ニモ決メ他人ノ靴ヲ踐又様ニシ又他人ノ敷キ物ヲ

母踐履毋踏席握衣趨隅必慎唯諾

ニ返事ヲスル一ニ氣ヲ付ネバナラヌ止呂氏曰ク衣ヲ握ケテ隅法此一章ハ第

禮記曰君子之容舒遲見所尊者齊

朱小學句讀明辨 卷之四 九 吉岡氏藏板

中ル然モ又須... 孔子曰尋常... 端口容止聲容靜頭容直氣容肅立容德色容莊... 曲禮曰坐如尸立如齊... 曾子曰云々蒙... 引ニ曰ク道ノ... 字該子得テ廣...

シ貴フ所ノ者... 夫ナレ善惡未... 上ニ至テ方サ... 二道ニ貴フ所... 意ヲ見ル○... 朱子曰ク人ノ... 狼戾ナルカ如... キ固ヨリ是レ... 暴稱々温恭ナ... ラサル亦是レ... 暴倨肆固ヨリ... 慢稍々或ハ怠... 緩亦是レ慢... 禮不踰節礼分... 等級アルハ竹... ノ節アルカ如... 朱小學句讀月粹... 卷之四... 〇十... 吉岡氏藏版

シ○本註ニ曰ク禮ハ尊卑ノ等級ヲ辨スルヲ以テ故ニ節度ヲ踰ヘズ禮ハ敬ヲ主トス自ツカラ舞ヲメ而ノ人ヲ敬フ故ニ人ヲ敬シ梅ルヲ得ズ習レ近キテ而敬ヲ加ヘザレハ則チ是レ好ミ狎ル

不内顧不疾言不親指此一章ハ論語郷黨篇ニ於テ孔子ガ車ニ升ル時ノ容チヲ記セシメテ引キ以テ世人モ亦車中ニ謹ムヘキコトヲ振向サルナリ又ハヤロテ物ヲ言ハヌナリ又自分ガテニ

曲禮曰凡視上於面則傲下於帶則憂傾則此一章ハ又禮記曲禮ノ語ヲ引キ以テ釋一體自分カ他人ト相對シタル上ヲ見ル様ナレバ自分ノ氣分ガ驕リ高ブリテ居ルノテアリ又向フノ人ノ帶ヨリ下ヲ視ル位ナレバ其心ニ何カ心配シテ居ルコトアルモノナリ又其視様ガ曲テ居ル時ハ其心カ曲テ居ルノデアリ此九ノ視ルノ禮ハ以テ人ヲ觀ルベシ蓋シ人ノ精神目ニ係ル故ニ目ノ視ル所即チ心ノ注ク所君子ノ

論語曰孔子於郷黨恂恂如也似不能言者此一章ハ論語郷黨篇ニ於テ孔子ノ郷黨ニ居ル時ノ容貌ニテ人亦釋郷黨ハ孔子ノ生レ郷黨ニ於テ孔子ノ若ク謹ムベキコトヲ示セシモノナリ

其在宗廟朝廷便便言唯謹爾此一章ハ論語郷黨篇中ニアリテ釋宗廟ハ魯君ノ御先祖ノ

明ニ留メサルハ耳聾声ヲ聽カス目乱色ヲ視サルナリ心術ハ道徑ナリ心ノ由ル所ナリ聰明嚴峻方氏曰ク聰明ハ外ナリ故ニ聲色ニ於テ之レヲ言フ心術ハ内ナリ故ニ禮樂ニ於テ之レヲ言フ留ムレハ則チ來テ而シテ止ル接スレハ則チ之レト交ル此又内外深淺ノ別

一體郷黨ニハ孔子ノ父兄宗族ノ如キ目上ノ人カ居ラレル故平生マソクシク信實ニシテ其様子ガ些トモ物言ヘヌ人ノ様デアル上朱子曰ク恂々ハ信實ノ貌言フ能ハサル者ニ似タリトハ謙卑

此一節ハ上節ト同シテ論語郷黨篇中ニアリテ釋宗廟ハ魯君ノ御先祖ノ

魯君ノ常ニ政事ヲ聽カル、場所ナリ此中宗廟ハ禮儀作法ノ定リタル大切ノ場所又朝廷ハ一國ノ人民ノ利害ニ關係スル處置ノ出ツル大切ノ場所故其問

フベキ事柄ハ問ヒ其言フベキ事柄ハ言フ様ニ物事ハ道理ヲ辨別シテ言ハルルガ自分ノ身ハ成文謹テ居ラレ講述ニ曰ク便々トハ辨ナリ禮法未タ合ハサル所アレハ則チ明ニ辨シテ之レヲ訂正スルナリ

朝與下大夫言侃侃如也與上大夫言此一節亦孔子兩大夫ト言ハル釋朝トハ朝廷ニテ魯君ノ未タ自分ヨリ身分高キ者ヲ云フ孔子カ下大夫ト話サレル時ニハ唯タ手強ク真直

夫トハ大夫ノ中ニテ自分ヨリ身分高キ者ヲ云ヒ上大夫トハ又大夫ノ中ニテ

争ハレルナリ存疑ニ曰ク下大夫トハ已ト平等ナル者ハ言以テ平等直達ナル

上大夫ハ已ヨリ尊キ者是ナラサル處アレハ亦當サニ諍フヘシ但タ和悦ヲ要

ベシ故ニ侃侃ト言フニ當テ委曲ナキナリ是レ諍ヲ正フ義ヲ斷スルノ意思

朱小學句讀月序

卷之四

吉岡氏或友

ナリ

委曲ニ之レヲ言フナリ ○孔子食不語寢不言

心知章句ニ曰

孔子食不語寢不言 此一章亦論語鄉黨

ク心知ルハ心

ハハサルナリ ○士相見

ノ明カナルナ

孔子モ亦食終ラ言ハサルニアラス口中正サニ食物ヲ含ム時言

リ順理ニ順フ

禮曰與君言言使臣與大人言言事君與老者言言使弟

ナリ其義フ行フ

者言言忠信 此一章儀禮士相見禮ノ語ヲ引キ以テ君子ノ

ハ其當サニ其

時ニハ總テ家来ヲ遣フニハ禮儀ヲ以テスベキコトヲ云ヒ又一國ノ卿大夫ノ若

行フベキ所ヲ

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

行フナリ ○觀

目出度善キ道ヲ行フヘキコトヲ云ヒ又仕官シテ居ル者ト話ス時ニハ君ニ向フ

瀾三宅氏曰ク

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

心知ハ猶ホ意

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

慮ト云フカゴ

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

トシ

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

百體ハ一身ヲ

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

孔子曰食無求

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

飽朱子曰ク安

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

飽ヲ求メサル

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

モノハ志在ル

若キ人ト話ス片ニハ銘々ノ父親ヤ兄ナトニ孝行ヲ盡シ又ハ弟道ヲ盡スコトヲ

先王此ヲ以テ教ト為ス故ニ當時上下ノ間相見ルノ際話言ニ形ハル者是ヲ

以テ交々相警飭セサルナシ是以テ聽ク者率不能ク善心ヲ興起シ非僻ノ行ヒ

自テ成ルコトナシ治隆ク俗美ニシ後世

論語郷黨篇中ニアル孔子ノ盛徳ヲ記シ釋席トハ自分ノ敷キ物ナリ其敷物カ

席ノ正フスベキコトヲ示セルモノナリ

○論語曰席不正不坐 此一章ハ亦論語郷黨篇中

ニ坐ラレヌナリ蓋シ孔子ノ心ハ万事正ニ安スル者故

○子見齊衰者雖

席ノ若キ小ナル者モ正シカラサレバ坐セサルナリ

○子見齊衰者雖

ヲ引キ以テ此三者ハ必ス敬

○子見齊衰者雖

スヘキコトヲ示スモノナリ

○子見齊衰者雖

此者ハ親ノ喪ニ遭ヒシ者故孔子モ其不幸ヲ哀ミ必ス平常ノ貌ヲ換ヘテ哀マ

○子見齊衰者雖

レルナリ雖狎トハ平日リ極懇意ナル者ヲ云フ右懇意ノ者デサヘ其貌ヲ變セ

○子見齊衰者雖

ラルレハ其懇意ナラサル者ノ變ズヘキハ固ヨリ言フヲ埃タズ冕者トハ頭ニ冠

○子見齊衰者雖

ヲ被ムリタル身分ノ貴キ者ヲ云フ警者トハ盲目ノ者警者ト貴人トハ喻ヒ平

○子見齊衰者雖

日何モ礼式トテ違ハレタノテナクトモ必ス貌ヲ改メテ禮義ヲ行ハレル平日

○子見齊衰者雖

ラサヘ尚ホ敬セラル、者故儀式ノ時ニ敬セラル、ハ固ヨリ言フヲ埃タサル

○子見齊衰者雖

リナ

○子見齊衰者雖

凶服者式之式負版者

○子見齊衰者雖

釋

○子見齊衰者雖

凶服者トハ喪服ヲ着タル者ナリ式之ト

○子見齊衰者雖

ハ自分カ乘リタル車ノ前ノ横木迫ウツ

○子見齊衰者雖

朱卜學可賣月俸

○子見齊衰者雖

卷之四

○子見齊衰者雖

〇十二

○子見齊衰者雖

吉司式或反

○子見齊衰者雖

只夕安飽ヲ求
ノスソ而ノ言
ヲ謹ミ行ヒ敏
ニセスレバ甚
意思アラシク若
シ只夕言ヲ謹
ミ行ヒテ敏ニ
ノ而ソ有道ニ
就キ正サス
バ則チ未タ差
アルヲ免レス
若シ工夫到ラ
スハ則チ有
道ヲ親ムト雖
凡亦正ヲ取ル
ヘキモノナシ
聖人ノ言周遍
欠缺ナキ類ネ
此ノ如シ
從懷如流章句

○禮記曰若有疾風迅雷甚雨則必變雖
強キ風又ハ烈熱雷電又手ヒトキ雨ガフルアレハ聖人ハ是非其平日ノカタ
チヲ換ヘテ之レヲ畏レ喻ヒ夜中ト雖凡一應寢床ヲ出テ、禮服ヲ被ムリ冠ヲ
カフツテ坐シ以テ天ノ
怒リヲ畏敬スルナリ ○論語曰寢不尸居不容
キ以テ聖人ノ盛徳ヲ示シ人ヲシテ容釋夜分寢夕時ニハ自分ノ手足ヲ展擴ケ
貌ヲ謹ムベキヲ教ヘシモノナリ ○義ヲ死人ノ様ナ風ヲセヌ又平日家ニ居
ラル、片ニハ別段自分ノ形ヲ嚴重ニ構ヘテオラレヌナリ范氏曰夕寢又ル
ニ尸セサルハ其死ニ類スルヲ惡ムニアラサルナリ惰慢ノ氣身体ニ設ク其四
体ヲ舒ヘ布クト雖凡而ソ亦未ダ嘗テ肆ニセサルノミ居ルニ容セサルハ惰ル
ニアラズ但夕祭祀ヲ奉ジ賓客ヲ見ル力若クセサルノミ申々夫々是レナリ
○子之燕居申申如也天天如也
此亦論語述而篇中ノ語ヲ引
キ以テ孔子ノ盛徳ヲ示セシ

ニ曰ク懐ハ意
ニ懐フ所ノ欲
ナリ流ハ水ノ
流レテ止ムベ
カラザルカ如
シ

○曲禮曰並坐不橫肱授立不跪授坐不立
此一章ハ禮記少儀篇ノ一ヲ引キ以テ人
ノ字形容シ盡ササルノ意ナリ胡氏曰申ニ展布ノ意アリ故ニ容ヲ以テ言ヒ夫ニ和悦ノ意アリ
故ニ色ヲ
以テ言フ ○曲禮曰並坐不橫肱授立不跪授坐不立
禮記曲禮篇ノ語ヲ引キ以テ並坐授立授坐
ノ三時ニ行フヘキ禮ヲ示セシモノナリ ○義ルヲ云ヒ不橫肱トハ自分ノ肱
ヲ横ニ張テ同坐ノ人ヲ妨ケヌヲナリ授立トハ人が立テ居ル時ニ自分ヨリ物
ヲ渡スヲ云フ此不跪トハ自分スワテヌヲナリ蓋シ立テタル人ニ自分カ坐
ン渡スト先方ノ人モ又坐セバナラヌ故却テ先方ノ人ニ迷惑ヲ掛クルヲ以
テナリ又授坐トハ人ノスワツテ居ルトキニ自分カ立テ物ヲ渡セハ其人モ
立タネバナラヌ故亦其人ノ面倒ヲ省クモノナ
リ按スルニ此ノハ尊卑ニ通シテ言フモノナリ ○入國不馳入里必式
此語モ亦曲釋國トハ一國ノ都ヲ云フ不馳トハ自分乘リタル車ヤ馬ヲ驅テ
禮ノ語ナリ ○義セヌヲナリ入里ハ村里ノ中ニ入テハト云フヲナリ必式トハ
里中ニモ亦賢人アルヲ知リ必ズ車ノ前ノ横木迫ウツム
イテ禮式ヲ為スナリ又里トハ二十五家アルトコロヲ云フ ○少儀曰執

明心術之要
兆李氏曰ク敬
ハ一心ノ主宰
万事ノ本根聖
學ノ始メヲ成
シ而シ終リヲ
成ス所以ナリ
夫レ心術ヲ明
ニスル十二章
ニシテ而シ之レ
ヲ首ムルニ丹
書ノ戒ヲ以テ
テスルモノハ
敬ヲ以テ急ニ

虚如執盈入虚如有人
此一章ハ禮記少儀篇ノ一ヲ引キ以テ人
ノ平日謹ムベキヲ記スルモノナリ

對ノ而ノ言フ 執塵トハ何物モ入レサル空シキ道具ヲ持ツト如執塵トハ物ノ入テ居ル様ニ 敬ニ畏懼ノ義 大切ニ持テ居ルト云フヲ入虚トハ誰レモ居ラヌ家ニ入ルト如有人トハ人カ

之君子必佩玉右徵角左宮羽 法文 此一章ハ禮記玉藻篇ヲ引キ以テ 君子ニ行趨ノ節アルヲ述フル

モノ釋昔ノ士以上ノ人ハ是非共自分ノ腰ニ玉ヲ下テ居ルナリ而ノ右ノ方ノ ナリ 法文 玉ノ音ハ必ス音樂ノ徵ト角トノ調子ニ可ヒ又左ノ方ノ玉ノ音ハ音樂

ヲ以テ主ト為 スナリ之レニ 次クニ曲記樂 記論語ノ三章

行以肆夏周還中矩折還中矩進則揖之退則揚之然後

玉鏘鳴也故君子在車則聞鸞和之聲行則鳴佩玉是以

非辟之心無自入也 法文 此一節亦上節ノ意ヲ承ケ以テ君子ノ 君子ガ早ク歩ム時ニハ和齊ノ詩ヲ歌フテ歩ミ行以肆夏トハ通例アクル時ニ

ハ肆夏ノ詩ヲ歌フテ歩クナリ此趨行ニ此二詩ヲ以テスルハ心中此ヲ奏スル

初學持敬切要 ノ工夫ナルヲ 以テスルナリ 小學ヲ為ス者

ハ此ニ頼テ以テ 始メテ大學 ヲ為ス者ハ亦

此ニ頼テ以テ 終リト為スナリ 能ハサルナ

冠儀曰凡人ノ 所以為人者云

云貝原益軒曰 云曲禮ニ云ク

鸞能ク言ヘ 凡飛鳥ヲ離レ

ズ狸々能ク言ヘ 凡禽獸ヲ離

レス今人トシ 禮儀ノ文ハ必ズ内ニ本キテ而シ

審固持弓矢審固然後可以言中此可以觀德行矣 法文 此

章ハ禮記射義篇中弓ヲ射ルノ語ヲ引キ以テ德行ヲ觀ルハ容貌ヲ正フスルニ

アルヲ述ブルナリ章句ニ曰ク此一章ハ射義ヲ言フ首章ニ禮義ヲ云フ者ハ

德行ノ文ナリ末ニ德行ヲ言フ者ハ禮義ノ本ナリ禮義ノ本ハ外ニシテ而シテ射

禮儀ノ文ハ必ズ内ニ本キテ而シテ德行ノ實アリ斯レ威儀ノ善ヲ盡スナリ 法文 此

テ而ノ禮ナク
ンバ能ク言フ
ト雖凡亦會歎
ノ心ナラヌヤ
言ハ禮義アレ
バ則チ人ト為
リ禮義ナケレ
ハ則チ禽獸ト
為ル尤モカ
行ハサルヘカ
ラサルナリ

禮儀之始云々
馬氏曰ク容体
ヲ正フスレハ
斯ニ暴慢ニ速
カリ顔色ヲ齊
フレハ斯ニ信
ニ近キ辞令ニ
順ヘハ斯ニ節
儉ニ遠カル○

トハ矢ヲ放ツ者ナリ進退トハ前ヘス、ミ後ヘシリツクナリ周還トハ互ニ
禮儀ヲ為シ又譲リ合時ニシテククルナリ云フ右進退周還カ一々禮儀作法
ニ付フ夕所デ心中ノ所存モ職ト正フナリ又外ノ身体モ真直ニナリソコデ自
分ノチニ弓ト矢ヲ持ツツ綿密其持ツヘキ所ヲ見定メテ持ツナリテシツカリ
トスル弓矢ヲ持ツツガ綿密デシツカリトスル所テソコテ向ノ的ニ中ルナリ
云ハレル箇楸ニ成テ始メテ其人ニ徳アル善キ行状ナルナリカ脇カラ見ラル、
止呂氏曰ク射ハ一藝ナリ容禮ニ比シ節樂ニ比シ發メ而シテ正鵠ヲ失ハズ是必
ズ義理ヲ樂ミ恭敬ニ久ク志ヲ用ウルナリ分レサルノ心アリ然後チ以テ之レヲ
得ベケレバ則チ其之レヲ得ル所以ノ者其徳
知ルベシ故ニ曰ク以テ徳行ヲ觀ルベキ矣ト

右明威儀之則

釋以上凡ソ二十一章ハ皆古ノ書或ハ聖人ノ辞ヲ
ニ述ヘシモノナリ○京兆李氏曰ク愚謂ヘラク敬畏ノ中ニ存スル者ハ
則チ之レヲ心術ノ要ト謂フ外ニ形ハル、者ハ之レヲ威儀ノ則衣服ノ
制飲食ノ節ト謂フ夫レ威儀ナル者ハ天命ノ自然一定ノ
而ノ易フベカラズ故ニ之レヲ則ト謂フ則トハ法ナリ

○士冠禮始加祝曰令月吉日始加元服棄爾幼志順爾

成德壽考維祺介爾景福
法此一章ハ儀禮士冠禮篇ノ語ヲ引キ以テ
加冠ノ時ニ述フルノ辞ヲ示スモノナリ

大全ニ曰ク禮
義既ニ備フレ
ハ是ニ由リ之
レヲ推シ以テ
君臣ヲ正フレ
テ而シ上下ノ
分定リ父子ヲ
親ミテ而シ慈
孝ノ道隆シニ
長幼ヲ和ケテ
而シ宗族ノ禮
治ル三ノ者既
ニ盡クレハ則
チ禮義立ツ矣
曲禮曰母側聽
云々永嘉戴氏
曰ク甚イカナ
人情ノ美ナラ
サルヤ四肢ノ
怠惰ニ安シク

而ノ此第一節ハ婚加冠釋古者人二十歳トナレバ善キ日ヲ擇ビ始メテ頭上ニ
ノ時ニ述フルノ辞ナリ加冠ヲ加ヘ以テ成人ノ禮ニ循フ者ナリ三ビ加ヘテ其
禮ヲ終フト雖凡其最初ニ加フル時ハ黒キ布ノ冠ヲ被セ且祝テ曰ク今日ハ是
レ吉日ニ當ルヲ以テ汝ノ頭ニ冠ヲ加ヘルニ依リ以テ汝ガ是迄ノ通りノ
穢キ所存ヲ棄テ切リ汝ガ成就シタ所ノ徳ニ順ヒ何時迄モ壽命長ク目出度仕
合セラ受ケテ以テ爾ノ身ニ大ナル福ヲ受クベシト家語ニ懿子曰ク始テ冠スル
ニ必ズ緇布冠ヲ加フルハ何ゾヤ孔子曰ク古ヲ志
レサルヲ示ス古布ヲ冠ス齊ニハ之レヲ緇布ト云フ再
申爾服敬爾威儀淑慎爾徳眉壽萬年永受胡福
釋又再ヒ
ヲ其頭ニ加ヘテ曰ク今日ハ是レ吉日ノ吉キ時時ハ十二時ノナリニ當ルヲ
以テソコデ汝ガ頭ニ被ムルヘキ冠ヲ二度重ネ加ヘルニ依リ以テ以來ハソコ
モトノ威光作法ヲ謹ミ重々敷シテ決メテ妄ナ風ヲシテハナラヌ又程能ク汝ノ
積ミ貯ヘキ善キ徳ヲ慎ミ氣ヲ付ケテ眉ノ毛ガ延ヒテ長生ヲスルナリ
モ績ク様ニアリテ何時迄モ汝カ身ニ仕合ヲ受ケヨト儀禮集說ニ曰ク徳ハ内
ナリ威儀ハ外ナリ學者固ヨリ當サニ徳ヲ以テ先ト為シ威儀ヲ後ト為スベ
シ然レ其外ヲ重クサレバ亦未タ必ス其中ノ存ル所ノ者ヲ保ツ能ハ
ザルナリ故ニ先ク威儀ヲ敬ムヲ言フテ乃チ後チ徳ヲ慎ムヲ言フ
三加
曰以歳之正以月之令咸加爾服兄弟具在以成厥徳黃

衣冠ノ拘束ヲ... 考無疆受天之慶

立惟夕其便安... 禮者筋骸ノ束

ノミ然リ而シテ... 戒ノヲ聞テ而シテ

ヲ佩フ其始メ... 戒ノヲ聞テ而シテ

勞スト雖凡而... 戒ノヲ聞テ而シテ

ク体舒ブ夫レ... 戒ノヲ聞テ而シテ

然ノ後ニ知ル... 戒ノヲ聞テ而シテ

人情ヲ安メ而... 戒ノヲ聞テ而シテ

ノ其身ヲ便ス... 戒ノヲ聞テ而シテ

ル所以也ト此... 戒ノヲ聞テ而シテ

ヲ以テ天下ニ... 戒ノヲ聞テ而シテ

教ヘハ其儆... 戒ノヲ聞テ而シテ

放逸ノ禍ヒナ... 戒ノヲ聞テ而シテ

カラシカ... 戒ノヲ聞テ而シテ

母三宅觀淵... 戒ノヲ聞テ而シテ

此一章ハ禮記曲禮ノ語ヲ引キ以テ人子於子

ノ衣服ニ制限アルコトヲ示セルモノナリ

爲人子者父母存冠衣不純素

爲人子者父母存冠衣不純素

爲人子者父母存冠衣不純素

爲人子者父母存冠衣不純素

爲人子者父母存冠衣不純素

朱小學句讀月粹 卷之四 〇十六 吉岡氏成夜

揚クル者ハ内人ヲシテ之レヲ知ラシムルナリ...

云々ト君子故ナケレバ玉身ヲ去ラズ君子ハ玉ニ於テ徳ヲ比ス孔子ハ象環五寸ヲ佩ヒテ...

潜ノテ以テ堂ニ升リ直チニ前ヲ而シテ...

○曲禮曰共食不飽共飯不澤手... 右明衣服之制... 示セシモノナシ...

邪侈ニ流レテ
而ノ自カラ知
ラズ故ニ堂ニ
升リ戸ニ入ル
日用ノ常ニ
而ノ君子嚴ラ
致ス此ノ如
キモノハ心術
ノ邪正繫ルヲ
以テナリ
禮記曰君子之
容云々陳氏曰
ク齊ハ變々齊
栗ノ齊ノ如シ
遊トハ謹テ而
ノ放ニセザル
ノ謂ト尊フ所
ノ者ヲ視ル故
ニ敬ヲ加フ
說義ニ曰ク舒

食物ヲ讓ルノ道ニアラサレバナリ母執飯トハ大饒ヲ食フテ其取り留メノナ
キナリ母流飲トハ汁物ナドヲ食フニ一ト息ニ飲ミ込メテシテセヌナリ而
ルニ流ト云フ者ハ其獸リ方カ水ノ文放飯以下其飲食ノ仕方ガ醜クシテ禮
流レテヤマヌ様ニアルヲ以テナリ法容ヲ失フヲ以テ之レヲ戒ムル者ナリ
母吃食母齧骨母及魚肉母投與狗骨母固獲
食フニ語ヲシテ食ハヌ様ニセヨト云フナリ是レ其食ヒ様ガ慎又ユ様デア
ル故ナリ母齧骨トハ最早其肉ヲ喰ヒ盡シテ跡ヲ其骨ヲシヤブラヌ様ニスル
ナリ是亦謹マ風ナルヲ以テ之ヲ戒ム母及魚肉トハ一旦自分ノ食フ道具ニ
入レタル者ヲ本ノ入レ物ニ交サヌヲ云フ此一旦己レカクニ當テタルヲ以
テ人カ其穢ラハシキヲ嫌ヘハナリ母投與狗骨トハ自分ノ喰餘ノ骨ヲ犬ニ投
ケ遣ラヌナリ是亦食事ヲ慎マヌ風アルヲ以テ之レヲ戒ム母固獲トハ未夕先
方ノ大入レ物ニアル時ニ自分ガ是非共其食物ヲ取ラントスルヲ云フ是即
チ人ニ讓ルヲ知ラズノ食物ヲ獨食ル風アルヲ以テ之レヲ戒ムルナリ
母揚飯飯黍母以箸
飯ト欲スル故之レヲ戒ム以テ自然ト熱氣ノ去ルヲ待ツヘキナリ
飯黍母以箸トハ黍ハ七ニテ食フヘキ者故著ヲ用キヌ様ニスルナリ
美母絮羹美母刺齒母歡醢客絮羹主人辭不能烹客歡醢
ハシト欲スル故之レヲ戒ム以テ自然ト熱氣ノ去ルヲ待ツヘキナリ
飯黍母以箸トハ黍ハ七ニテ食フヘキ者故著ヲ用キヌ様ニスルナリ
美母絮羹美母刺齒母歡醢客絮羹主人辭不能烹客歡醢

逢ハ專ラ燕居
ヲ言ハズ尺夕
尊者ナケレバ
便ナ然リ是レ
常時ノ容和ヲ
主トス下句ハ
尊ニ面フノ容
敬ヲ加フ
足容重蒙蒙
訣ニ曰ク足容
重キハ輕ク舉
ケサルナリ尊
長ノ前ニ趨ル
カ若キハ則チ
此ニ拘ハルベ
カラズ手車ナ
ケレバ則チ當
サニ端拱スベ
シ手ヲ弄ノ物
ヲ撫スベカラ

主人辭以宴
醬油ナドヲ差シ更ニ其食ノ味ヲ付ケルト刺齒トハ齒ノ間へ菜ヤ肉ナトカハ
サガリタヤ箸ヲ自分ノ齒ヲ突キ刺スト歡醢トハ醢ハ本肉ヲ切りテ之レニ酢
醬油生薑ナドヲ入レ其味ヲ付クルモノナレバ箸ニテ喰フベキモノナルヲ今
其汁瀝ギテ以テ吸ヒ物ト同シク之ヲ吸フ右ノ如ク客ト為テ居ナガラ禮義ヲ
外レテ汁ノ味加減ヲ勝手ニ為シタル時ニハ其家ノ亭主ハ何分食味ノ加減カ
不辨法テ旨ク蒸ルトガ出來ザリシト辭リ又客ハ禮義ヲ外レテ醢ヲ吸フキハ
主人ハ客ニ向ヒ何分自分ハ食之テアレ法文此二句ハ皆主人ヨリ客ヲ
ハ旨ク醢ノ加減ガ出來サルト辭ルナリ法文此二句ハ皆主人ヨリ客ヲ
齒決乾肉不齒決母喂炙
シ又子タル肉ハ齒ニテ切ラヌ手ニテ之レヲ裂クナリ又燒キタル肉此一章
ハ一度ニ丸ル吞ミシタリセズニ次第々々ニ之ヲ喰フ様ニスルト法文此一章
ニ付キ種々ノ作法アルヲ教ヘシモノナリ
少儀曰燕侍食於君子則先飯而後
已母枚飯母流歡小飯而亟之數噍母為口容
ノ語ヲ引キ以テ君子ニ侍食禮義トハ公ケノ儀式デナキ平生ノ食事ヲ云フ侍
スルノ禮法ヲ示スモノナリ義食於君子トハ自分ヨリ目上ノ身分アル人ノ側

ズ 立容徳徳トハ 中立ノ備ヲズ 儼然トシテ徳 アルノ氣象ヲ 謂フ 色容莊莊ハ矜 持ノ貌按スル ニ以上九ノモ ノハ皆敬ノ目 此ニ即キ便チ 是レ本源ヲ涵 養スルナリ章 句ニ曰ク九者 皆舒避ノ意 曲禮曰坐如尸 云々本註三句ハ 神象ノ如クスレバ其 知ルベシ齊ト

ニ付テ飲食スルナリ此時ニハ自分カ地ッ先キヘ立テ少々食ヒ直チニ止ム 是其食物ノ毒味ヲ為ス穢リナリ又其早ク已ムルハ君子ニ食事ヲス、モンガ 為ノニテ決メ自分ガ糧ノ禮ニ當ラヌナリ母放飯トハ大飯ヲ喰フテ更ニ節 限ナキコトヲナスト云フ一母流弊ハ汁ヲ吸フニ續ケサマニ吸フ様ナコトス ナト云フフ小飯而過之トハ少シク度々ニ食物ヲ食フ様ニスル數燕母為口 容トハ度々肉ナトヲ嚙テ色々ナ口ノ屬ヲスナト云フフナリ放飯以下ハ皆禮 儀ヲ失フタル仕振ナルヲ以テ固ク之レヲ戒ムルモノナリ馬氏曰ク君子饒酒 豆肉ノ間ニ於テモ未タカワテ謙ヲ致シテ廉ヲ養ハザルハアラザルナリ

○論語曰食不厭精膾不厭細此文子ノ飲食ヲ謹マレタル形狀ヲ記 スルモ凡ソ飯米ハ成丈能ク撮タル者カ人間ニ藥ト為ル故飯ハ如何程白ク ノナリ義揚テモ構ハヌト云フナリ又ウスク切りタル肉ハ其幅ノ細キ程カ能 ク食ヘテ身體ノ害ニナラヌ者故如何程切り様ガ細クテモ構ハヌト云フナリ然レモ是非共飯ハ精肉ハ細ナルヲ欲スルニアラズ只粗キト構ハヌト云フナリ方ヲ好ミ廣キト細キトナレハ細キ方ヲ好ムト云フナリ輔氏曰ク是ヲ以テ善ト為スハ理ナリ必ス是ノ如キヲ求ムルハ欲ナリ理ニ備フモノハ過テ 求ムルナク欲ニ徇ヘハ 則チ至ラサルナレ

食饅而鰓魚餒而肉敗不食色惡不食 臭惡不食失飪不食不時不食

食ハ飯ナリ饅ハ熱サヤ濕リ氣デ ソコネタルモノナリ鰓トハ其味

ハ其精誠ヲ致 スノ至リ齊ノ 如クスレハ則チ 齋ニシテ齋カナルヲ知ルベシ 立如齊陳祥ニ 曰ク齊ハ祭前 齋戒ノ齊ニアラズ乃チ祭ル 時神前ニ立ツ 齋敬ノ容ヲ 不啻御朱子曰ク旁ハ恣ク及フナリ及ク人ト狎レ習フハ恭敬ナラサルナリ 不道舊故合璧ニ曰ク舊故ノ

ノ變タルモノ魚鰓トハ魚ノ身ノタレタルナリ肉敗ハ獸肉ナトノ腐リタルナリ右ノ若キ食物ハ皆身體ノ害ト為リ却テ後日ノ病氣ヲ惹キ起ス者故決メ 食ハレヌ又總テ食物ノ色ノ變リタル者ハ固ヨリ其味ノ惡クナリシヲ以テ食ハサルナリ又クサキ匂ヒノ立ツ食物ハ食ハザルナリ失飪トハ其食物ノ烹加 減ヲ間違フタルモノナリ是又食ハサルナリ不時トハ果物ヤ穀物ナトノ夫々 ノ食フヘキ時デナキコトナリ夫レ桃ハ八月頃ニ熟シ柿ハ九月頃ニ熟スラ五月 七月頃ニ當リテ桃ヤ柿ノ實アレバ熟セヌ者故食ハサルナリ是全ク熟セザルモノヤ烹加減ヲ誤リタルモノヲ食ヘハ必ズ身體ニ害アルヲ以テナリ此皆孔子 飲食ヲ謹ミ養生セラルノ法ナリ

割不正不食不得其醬不食

割不正トハ肉 角ニナクユガミタリ或ハ引キチギリタリシタ様ナ不正ノ品ハ食ハサルナリ 不得其醬トハ芥子ヤ醬油ノ若キ其食物ニ添エヘキ者ガ無キ時ナリ此又品物 ノ備ハラサルヲ以テ嫌フテ食ハサルナリ朱子曰ク魚膾ノ芥醬ヲ得ズ麋腥ノ 醢醬ヲ得サルガ若キハ食ハス其備ハラスレテ人ヲ傷フコトアルヲ謂フナリ

肉雖多不使勝食氣唯酒無量不及亂

如何程肉類ガ多クア キ起エテ食ハヌ是レ畢竟食ハ穀物ヲ以テ主トスレハナリナレバ酒丈ケハ人 ト互ニ打ち解テ親ムガ為メ飲ムモノナルヲ以テ向フノ客ノ飲ミ量次第吞テ 決メ何合何升吞ムト云フ極リナシ唯夕酒ニ依テ自分ノ心ヲ亂ス様ナコトヲセ 又様ニセラレル丈ノコトヲア止朱子曰ク特ニ肉ノミナラヌ凡ソ蔬果ノ類モ皆

非言ハガハルハ宜シク人ノ過チヲ隱スヘシ○章句ニ曰ク舊故ハ已往ノ舊事ヲ謂フ之レヲ言ヘバ必ス其是非ヲ論ス恐クハ人聞クトテ厭ハシ且ツ或ハ人ニ於テ妨ケアルナリ

禮記曰君無故不殺牛大夫無故不殺羊士無故不殺犬豕君子遠庖厨凡有血氣之類弗身踐也... 禮記曰君無故不殺牛大夫無故不殺羊士無故不殺犬豕君子遠庖厨凡有血氣之類弗身踐也... 禮記曰君無故不殺牛大夫無故不殺羊士無故不殺犬豕君子遠庖厨凡有血氣之類弗身踐也...

ハ作爲太速カ必然ニ違セズ意氣太タ狂クノ必然ニ繼ガズ一意ノ如クナラサレハ便チ消阻困頓前功ヲ把テ盡ク棄テ取ル進ム一鏡ナレハ退ク一遠カナル機變ニ相須テ而ノ勢必ズ至ル所ノ者故ニ之レヲ戒ム

禮記曰君無故不殺牛大夫無故不殺羊士無故不殺犬豕君子遠庖厨凡有血氣之類弗身踐也... 禮記曰君無故不殺牛大夫無故不殺羊士無故不殺犬豕君子遠庖厨凡有血氣之類弗身踐也... 禮記曰君無故不殺牛大夫無故不殺羊士無故不殺犬豕君子遠庖厨凡有血氣之類弗身踐也...

スヘカラス恐 禮ヲ為シ以テ濟禍ニ備フ ○孟子曰飲食之人則人賤之矣為其

クハ失誤アラルニ至レリト云フベシ 養小以失大也 此一章ハ孟子告子上篇ノ語ヲ引キ以テ人ノ飲

食ヒノミニ耽リテ専ラ自分ノ口ト腹トノミヲ養フ事計リニ掛リテ居ル人ハ 世間ノ者ガ其人ヲ下ゲシムト云フモノハ其口腹ノ若キ小サキ一ノミヲ養フ

テ自分ノ心志ノ如キ大切ナル者ヲ飲食ニ取ラレテ居ルカラテアル張子曰ク飲食ハ人ノ 生活スル所以ナリ惟ガ其飲食ヲ尊シテ其義理ヲ忘レバ則チ以テ鄙賤スベキヲ以テナリ

右明飲食之節 以上都合六章皆古書ノ語ヤ古聖賢ノ語ヲ引キ以テ飲食ヲ制限スベキヲ明ニ示セシモ

ノナリ京兆李氏曰ク人ノ飲食ハ實ニ心術威儀ノ繫ル所故ニ又其次ニ 處此高愈曰ク衣服飲食ハ人ノ常道ナリ而ルニ服奇ナル者ハ志溢シ飾

僂ル者ハ人鄙シム夫レ酣飲叫號貪饕餮ナキハ皆心術威儀ヲ棄テ盡ク之レヲ喪フ故ニ朱子敬身ノ道ニ於テ特ニ其意ヲ詳ニスル此ノ如シ

朱小學句讀明辨卷之四終

孔子食不語寢不言朱子曰ク答ヘ述フルヲ語ト曰ヒ自カラ言フヲ言ト云フ范氏曰ク聖人

心ヲ存シ他ナラズ食スルニ當テ而シテ食ヒ寝スルニ當テ而シテ寢又言語ハ其時ニアラサルナ

ラサルノ心アリ胸中ニ存ス此君子ノ慎ムトコロナリ 闕々如朱子曰ク聞々ハ和悦ニシテ

ナリ又曰ク和悦ナレバ上ニ事フルノ恭キヲ失ハズ詩ハ八則チ又我ニアル義理ノ正ヲ失ハ

ズ孔子食不語寢不言朱子曰ク答ヘ述フルヲ語ト曰ヒ自カラ言フヲ言ト云フ范氏曰ク聖人

心ヲ存シ他ナラズ食スルニ當テ而シテ食ヒ寝スルニ當テ而シテ寢又言語ハ其時ニアラサルナ

ラサルノ心アリ胸中ニ存ス此君子ノ慎ムトコロナリ 闕々如朱子曰ク聞々ハ和悦ニシテ

ナリ又曰ク和悦ナレバ上ニ事フルノ恭キヲ失ハズ詩ハ八則チ又我ニアル義理ノ正ヲ失ハ

ズ孔子食不語寢不言朱子曰ク答ヘ述フルヲ語ト曰ヒ自カラ言フヲ言ト云フ范氏曰ク聖人

心ヲ存シ他ナラズ食スルニ當テ而シテ食ヒ寝スルニ當テ而シテ寢又言語ハ其時ニアラサルナ

ラサルノ心アリ胸中ニ存ス此君子ノ慎ムトコロナリ 闕々如朱子曰ク聞々ハ和悦ニシテ

ナリ又曰ク和悦ナレバ上ニ事フルノ恭キヲ失ハズ詩ハ八則チ又我ニアル義理ノ正ヲ失ハ

ズ孔子食不語寢不言朱子曰ク答ヘ述フルヲ語ト曰ヒ自カラ言フヲ言ト云フ范氏曰ク聖人

心ヲ存シ他ナラズ食スルニ當テ而シテ食ヒ寝スルニ當テ而シテ寢又言語ハ其時ニアラサルナ

ラサルノ心アリ胸中ニ存ス此君子ノ慎ムトコロナリ 闕々如朱子曰ク聞々ハ和悦ニシテ

ナリ又曰ク和悦ナレバ上ニ事フルノ恭キヲ失ハズ詩ハ八則チ又我ニアル義理ノ正ヲ失ハ

ズ孔子食不語寢不言朱子曰ク答ヘ述フルヲ語ト曰ヒ自カラ言フヲ言ト云フ范氏曰ク聖人

心ヲ存シ他ナラズ食スルニ當テ而シテ食ヒ寝スルニ當テ而シテ寢又言語ハ其時ニアラサルナ

キテ出ツ其久シキニ及フヤ則チ物ト俱ニ入ル射義曰云々高愈曰ク上威儀ノ則大旨容体... 色辞令三ノ者ニ出テス而志正体直ノ四字内外ヲ無テ言フ心術威儀ノ要ヲ盡クスニ足ル而...

ヲ以テナリ曲禮曰為人子者云々按スルニ冠ノ飾リ衣ノ縁皆純ト曰フ素ヲ純ニセザルハ樂... ミテナリ米ヲ純ニセサルハ哀ムナリ幼ニメ父ナキヲ孤ト曰フ當室トハ父ノ後タル者ハ喪...

ヲ飾ト為セハ則チ齊殺ノ宜シキニ違フ紅紫ヲ服ト為セバ則チ男女ノ宜シキニ違フ羔裘以
 ラ弔スレハ則チ吉凶ノ宜キニ違フ童子裘帛履絳スレバ則チ長幼ノ宜シキニ違フ此皆衣服
 ノ謹ムヘキ所ノ者而シテ惡衣ヲ耻ツルニ至リテハ則チ識趣猥瑣必ズ廣大高明ノ見ナシ故ニ
 特ニ引テ以テ結ト為シ人ヲシテ戒メシムル所ヲ知ラシムルナリ曲禮曰共食云々困學紀聞
 ニ曰ク理遠要設ニ云ク周人尚ホ手ヲ以テ搏食ス故ニ記ニ云ク飯ヲ共ニシテ手ヲ澤セズ蓋
 シ弊俗漸ク改ツテ未タ盡キズ今夷狄及ヒ海南ノ諸國五嶺外ノ人皆手ヲ以テ搏食ス豈ニヒ
 節ヲ用ウルニシカンヤ母搏飯母放飯云々放飯ハ大飯食フ節ナキナリ流歎ハ長歎歎ム
 節ナキナリ呂氏曰ク食ニ放ト言ヒ羹ニ流ト言フ皆飲食ヲ貪リ肆ニシテ而シテ容ナキナリ母
 羹章句ニ曰ク羹ハ當サニ箸ヲ以テスベシロヲ以テ就テ之レヲ飲メハ則チ雅ナラス字彙ニ
 曰ク羹ハ口ヲ以テ就テ食フナリ母漿羹本註ニ曰ク漿ハ猶ホ調フガゴトシ加フルニ塩梅ヲ
 以テスルヲ云フ孔子曰ク絮ハ食器中ニ就キ塩梅ヲ調足スルヲ云フ是レ主人食味ノ惡レキ
 ヲ嫌フナリ母曠炙疏ニ曰ク併テ之レヲ食フヲ曠ト曰フ是レ食ヲ貪ルナリ少儀曰云々廣平
 游氏曰ク聖人夫ノ人ノ大欲夫ノ飲食ニアルヲ知テ而シテ謙ヲ飲食ノ禮ニ致ス終食ノ間ニシ
 而シテ賢不能得テ知ルベキナリ貪ルヤ人ノ惡ムトコロヲ犯スナリ主人ノ飲食ヲ薄クス
 ルヤ聲容ノ敬マザルヤ小人ノ情狀此ニ見ハル聖人ノ教ヘ其己ニ大惡ニ屬クヲ持テ而シテ後
 ナ之レヲ正サザルナリ其大惡ヲ待テ而シテ之レヲ正セバ則チ及フナシ夫ノ起居飲食ノ間ニ
 於テ之レガ禮ヲ為ス馬聖人ノ意ヲ用ウル微ナリ不撤薑食醫學入門ニ曰ク薑ハ今人但ク胃
 藥ナルヲ知テ而シテ其心肺ヲ通スルヲ知ラサルナリ氣通スレハ則チ一身ノ氣正フン而シ
 邪氣容ル、能ハズ故ニ曰ク穢惡ヲ去リ神明ヲ通スト後人孔子ノ微セサルニ因テ而シテ每ニ
 好テ之レヲ食フ其實多ク服スレバ志ヲ少フシ神氣ヲ傷フ故ニ孔子多ク食ハズ無故云々故

トハ祭祀及ヒ賓客ノ禮ヲ云フナリ庖廚庖ハ肉類ナト料理ノ所ヲ云ヒ廚トハ食物ヲ烹
 タキスル所ヲ云フ纂家為酒本註ニ曰ク穀ヲ以テ犬豕ヲ食フヲ黍ト云フ一獻之禮百拜云々
 嚴陵方氏曰ク以テ飲ムノ少キヲ見ハシ百拜ハ以テ儀ノ多キヲ見ハス邪疏ニ曰ク九ノ饗禮
 大行人ヲ按スルニ云ク上公ハ九獻侯伯ハ七獻子男ハ五獻並ニ命數ニ依ル其臣介ハ則チ孤
 ハ子男ニ同ク卿大夫ハ一節ト為ス俱ニ三獻天子諸侯ノ士同ク一獻ナリ故ニ鄭一獻ノ士饗
 禮タルヲ知ル獻スル所ハ酒少シ初ノヨリ未ニ至ル賓主相答ヘテ而シテ百拜アリ是レ意恭敬
 飲ヲホスニアルノミ故ニ醉フヲ得サルナリ孟子曰云々高愈曰ク飲食スルニ古禮ヲ以テ法
 トシ聖人ヲ以テ則トスレハ其道備ハル然ルニ肉殺ニ因テ妄殺シ飲酒ニ因テ沈湎シ口腹ニ
 因テ其心志ヲ喪フ者常ニ多シ學者謹ムヘキ所ナリ故ニ復タ禮記以下ノ三章ヲ引キ以テ戒
 トス

標釋終 子小學句讀明辨卷之四終

